



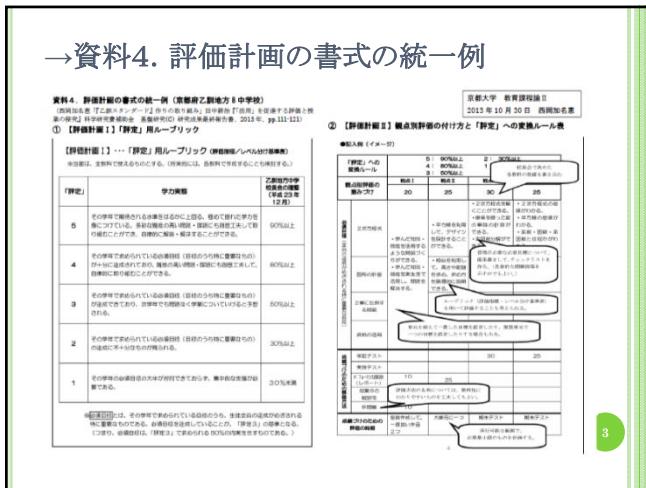
## 課題C 学力評価計画の策定

- ①10月30日に配布した資料4②【評価計画Ⅱ】の書式を用いて、自分の好きな教科・学年(学期)の学力評価計画を立ててください。

※学力評価計画については、単元レベルで作る場合もあります。

一枚ポートフォリオの裏面  
Cのセクション

教科：学校段階：学年・学期：



◎予め資料をプリントアウトして、手元で見ながら視聴してください。

### ◎「日々の記録」⑨

- 課題B「パフォーマンス課題づくり」／課題C「学力評価計画の策定」に取り組んだ際に、自分なりに工夫した点や発見したことについて述べなさい。

- 課題D(あ)「ポートフォリオの設計—生徒への説明」に取り組んだ際に想定していた学校の特徴について述べなさい。

4

	単元1	単元2	単元3	…	総括的評価
関心・意欲・態度	目標aa 目標ab 目標ac	目標ad 目標ae 目標af	目標ag 目標ah 目標ai	…	合計・平均
思考・判断	目標ba 目標bb 目標bc	目標bd 目標be 目標bf	目標bg 目標bh 目標bi	…	合計・平均
技能・表現	目標ca 目標cb 目標cc	目標cd 目標ce 目標cf	目標cg 目標ch 目標ci	…	合計・平均
知識・理解	目標da 目標db 目標dc	目標dd 目標de 目標df	目標dg 目標dh 目標di	…	合計・平均

### ◎問題点

- 目標が限りなく細分化。⇒多忙化
- 評価方法がわからない。
- 「高次の学力(思考力・判断力・表現力等)」が評価できるか、疑問。
- どの程度のパフォーマンスが見られれば「良し」と判断できるのか、不明。  
～スタンダード←社会的に共通理解
- 伸びないことが前提？！  
←形成的評価(授業改善のための評価)と総括的評価(指導後の状況を記録するための評価)の区別がついていない。

6



◎イギリスGCSE(英語)の科目明細の例					
	「文芸のテキストを読む」 統制された評価 (課題3つ)	「想像的に書く」 統制された評価 (課題2つを含む 習作1つ)	「話す・聞く」 統制された評価 (課題3つ)	「情報と概念」 試験 (筆記)	計
約50時間	約20時間	約20時間	2時間		
シェークスピア、戯文、ノン・フィクション、詩	テキスト開発とメディア	個人の貢献、グループ活動、ドラマ活動	ノン・フィクションとメディア、書くこと		
話す・聞く		40点		40点 (20%)	
読む	40点		40点	80点 (40%)	
書く	40点		40点	80点 (40%)	
40点 (20%)	40点 (20%)	40点 (20%)	80点 (40%)		13

(GCSE English-J350(from 2012)  
<http://www.ocr.org.uk/qualifications/gcse-english-j350-from-2012/>)

評価の単元	必修/ 選択	レベル	評価方法	AO1	AO2	AO3	計
G620 機能している科学	必修	AS	ポートフォリオ	38	20	42	100
G621 職場における分析	必修	AS	ポートフォリオ	38	20	42	100
G622 人体の活動をモニタリングする	必修	AS	外部試験	64	36	—	100
G627 科学者の仕事を探究する	必修	A2	ポートフォリオ	20	28	52	100
G628/G635	選択	A2	外部試験	50	50	—	100
G629-G634のうち1つ	選択	A2	ポートフォリオ	20	28	52	100
				230	182	188	600

(AS/A Level GCEScience (applied) - H175, H375, H575, H775  
<http://www.ocr.org.uk/qualifications/as-a-level-gce-science-applied-h175-h375-h575-h775/>)

AO1: 知識と理解の実演  
 AO2: スキル・知識・理解の応用  
 AO3: 実験と調査

### ◎単元学習指導案の例(森千映子先生提供)

英語科 単元別指導案	京都市立衣笠中学校 3年生Ⅱ期 平成18年1月21日(火)第4回授業(12:30~13:20) 教室 3年3組 指導者 森 千映子	
1 単元名	Unit 6 20th Century Great Writers (東京書籍 NEW HORIZON)	
2 重点目標	絶対的、関係的名詞などの形態變化に対する理解力をもつて表現できる。 →観点と評価方法	
3 評価目標と評価方法	(1) 他人と呼ばれる人について、自分と呼ばれる人との比較的なうでの、物語の構成や登場人物の行動、感情などを表現しようとする。(コミュニケーションへの関心・表現・態度)	評価目標 評価方法 ○パフォーマンス課題 「私達は皆、自分たちに英語でメッセージを書きます。その中では、あなたが誰なんだか、何をしたいのか、何を伝えたいのか、その人を表現しているのかを見て下さい。その人のためにして、どのような表現をするか、自分の意見を述べて下さい。」(2) 他人と呼ばれる人について、学習した文脈をもって、調べた内容や感想を英語で表現する。(表現の能力)
	(2) 他人と呼ばれる人について、読みたりしてその内容を理解できる。(理解の能力)	○聞き取りテスト ○ペーパーテスト
	(3) 動植物、調査の名前などの知識をもつて、自分の意見を述べる。(言葉や文化についての理解)	

↓ 単元内の構造化

### (3)「乙訓スタンダード」の背景

#### ◎評価に関する決定権は、各学校にある。

- 「学校や設置者の創意工夫を生かす現場主義を重視した学習評価の推進」

(中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」2010年3月24日)

- 「評定の適切な決定方法等については、各学校において定める」

(文部科学省「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要領の改善等について(通知)」2010年5月11日)

- 「ただし、「評価の結果が進学等において活用される都道府県等の地域ごとに、一定の統一性が保たれることも求められる」

(中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会「児童生徒の学習評価の在り方について(報告)」2010年3月24日)

### ◎乙訓地方中学校長会の決定(2011年度)

学校間での評価について、統一的なルールを定めること、および改訂・改善を重ねていく。  
←アンケートなどにより、全教員の意見を集約しつつ、策定。  
←そのプロセスに、西岡はアドバイザーとして参加。

17

### ◎何のための乙訓スタンダードか? (乙訓地方中学校長会による説明、2011年8月)

- 評価の信頼性が高まる。
  - 生徒・保護者にとって、どの学校でも、一貫した評価を受けられる。
  - 教員にとって、学校を異動しても、評価で戸惑わなくてすむ。
  - 評価の妥当性(カリキュラム適合性)が高まる。
  - より効率的に評価ができる、「確かな学力」をより的確にとらえることができる。
  - より効率的に評価ができるようになり、無駄な労力が省ける。
  - 教育実践の指針となる。
  - 優れた実践の知見を共有できる。
  - 教員同士で、実践改善のためのアイデアが出しやすくなる。
  - 説明責任が果しやすくなる。
  - 進学先に対しても、「乙訓」の取り組みをアピールできる。
- 18

#### (4) 課題Cの作業手順

#### →資料4. 評価計画の書式の統一例

「評定」への 変換ルール		変更不要。		
観点別評価の 重みづけ		観点 I	観点 II	観点 III
2次方程式	20	25	30	25
図形の計量				この比率は、どの方程式の問題がわかる。
2乗に比例す る問題				
資料の活用				

①観点毎の重みづけを  
考えて、%を書き込む。  
(最後でもOK)

示すのでもよい。)

ループリック(評価指標・レベル分け基準表)  
を用いて評価することも考えられる。

単元を超えて一貫した目標を設定したり、複数単元で  
一つの目標を設定したりする場合もある。

### ◎観点別評価から評定へ変換するルールの例

- ◆ 学力構造を配慮して、ありえないA・B・Cの組み合わせはつけない。  
例。「A, C, C, C」(「関心・意欲・態度」だけA？！)
  - ◆ 「観点別学習状況」欄の評価を、「評定」に変換するルールを決める

評定の範囲（幅）一国語以外の場合						
(2)素点合計の割合		評定 5	評定 4	評定 3	評定 2	評定 1
(1)配列パターン ( )内は実現の値の幅	90%以上	80%以上	50%以上	20%以上	20%未満	
	90%未満	80%未満	50%未満			
評定 5	AAAAA (80%~100%)	全て含む	全て含む			
	AAAB (72.5%~95%)	一部含む				
評定 4	AABA (65%~89.5%)					

A・B・Cの組み合わせを、重みづけも勘案しつつ、%に変換

A・B・Cの組み合わせから自動的に変換

(北原琢也編著「『特色ある学校づくり』とカリキュラム・マネジメント』三学出版、2006年、pp.50-51)

「課題」への 変換ルール	5 : 90%以上	2 : 30%以上	
	4 : 80%以上	1	校長会で決めた 各教科の数値を書き込む
	3 : 50%以上		
観点別評価の 重みづけ	観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ
	20	25	30
			25
②その学年(学期)で指導 する単元名を書き込む。			
※全員の達成がめざされる (誰か個別)(誰か)			
2次方程式	学んだ知識・ 技能を活用する うな問題つく りができる。 学んだ知識・ 技能を実生活 に活用し、問題 解決法	既得するこ とに ができる。 ・実力測定が 困難な場合は 苦心が必要目標について、 箇条書きして、チェックリストを	苦心が必要目標について、 箇条書きして、チェックリストを
图形の計量			
2乗に比例す る問題			
資料の活用			

教科書会社のウェブページに  
年間指導計画・評価計画の  
資料が掲載されている場合も  
あります。

単元を越えて一貫した目標を設定して、各学年で  
一つの目標を設定したりする場合もある。

「評定」への 変換ルール	5： 90%以上	2： 30%以上	
	4： 80%以上	1	校長会で決めた 各教科の数値を書き込む
	3： 50%以上		
観点別評価の 重みつけ	観点Ⅰ	観点Ⅱ	観点Ⅲ
	20	25	30
			25
必須目標 全員の達成が求められる情 「基礎的な目標」	2次方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学んだ知識、 技能を活用する ような問題づく りができる。</li> <li>・学んだ知識、 技能を実生活で 活用し、問題を 解決する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平方根を利用 して、デザイン を設計すること ができる。</li> <li>・相似を利用し て、高さや距離 を求める。→めぐ を論理的に説明 できる。</li> </ul>
図形の計算			
2乗に比例す る関数		<p>単元を越えて一貫し 一つの目標を設定して</p>	<p>習得が必要な必須目標について、 箇条書きして、チェックリストを作 る。(具体的な問題例等を示すのもよい。)</p>
資料の活用			
	基礎三つ手	20	25

※単元の目標、観点の趣旨などを理解するためには

- 学習指導要領で、その單元に対応する目標・内容  
内容の取扱いの部分を  
読む。  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/  
shotou/new-cs/youryou/  
index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/index.htm)

キーワードについて  
辞典・事典を引いたり  
関連文献を読むことも  
重要



○「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」(2010年5月11日)  
→別紙5 各教科等・各学年等の評価の観点等及びその趣旨(小・中学校)、別紙6 各教科の評価の観点及びその趣旨(高等学校)  
[http://www.mext.go.jp/b\\_menu/hakusho/nc/attach/1293807.htm](http://www.mext.go.jp/b_menu/hakusho/nc/attach/1293807.htm)

○「評価規準の作成のための参考資料」(国立教育政策研究所)  
<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>

全項目の達成がめざされる特徴に重きを置く	技能を活用する ような問題づく りができる。 ・相似を利用して、 高さや距離 を求め、求め方 を論理的に説明 できる。	できる。 習得が必要な必須目標について、 箇条書きして、チェックリストを作 る。(具体的な問題例等を示すのも よい。)	ができる。 ・相似を利用して、 高さや距離 を求め、求め方 を論理的に説明 できる。	習得が必要な必須目標について、 箇条書きして、チェックリストを作 る。(具体的な問題例等を示すのも よい。)
图形の計量	2乗に比例す る関数	資料の活用	图形の計量	图形の計量
成績づけのための評価方法	単記テスト 実技テスト パワーパズル課題 (レポート) 授業中の観察等 作問帳	評価方法の名前については、教科毎に わかりやすいものを工夫してもよい。	単記テスト 実技テスト パワーパズル課題 (レポート) 授業中の観察等 作問帳	単記テスト 実技テスト パワーパズル課題 (レポート) 授業中の観察等 作問帳
成績づけのための評価の時期	25	25	25	25
	単記作成して、 一番良い作品 2つ	大単元につ いて	期末テスト	期末テスト
	実行可能な範囲で、 必要最小限のものを計画する。			

④その学年(学期)で用いる評価方法を書き込む。

全項目の達成がめざされる特徴に重きを置く	技能を活用する ような問題づく りができる。 ・相似を利用して、 高さや距離 を求め、求め方 を論理的に説明 できる。	できる。 習得が必要な必須目標について、 箇条書きして、チェックリストを作 る。(具体的な問題例等を示すのも よい。)	できる。 習得が必要な必須目標について、 箇条書きして、チェックリストを作 る。(具体的な問題例等を示すのも よい。)	できる。 習得が必要な必須目標について、 箇条書きして、チェックリストを作 る。(具体的な問題例等を示すのも よい。)
图形の計量	2乗に比例す る関数	資料の活用	图形の計量	图形の計量
成績づけのための評価方法	単記テスト 実技テスト パワーパズル課題 (レポート) 授業中の観察等 作問帳	評価方法の名前については、教科毎に わかりやすいものを工夫してもよい。	単記テスト 実技テスト パワーパズル課題 (レポート) 授業中の観察等 作問帳	単記テスト 実技テスト パワーパズル課題 (レポート) 授業中の観察等 作問帳
成績づけのための評価の時期	30	25	30	25
	単記作成して、 一番良い作品 2つ	大単元につ いて	期末テスト	期末テスト
	実行可能な範囲で、 必要最小限のものを計画する。			

⑤評価の観点と評価方法を踏まえて、重みづけに応じた%を書き込む。

「評定」への 変換ルール	5: 90%以上 4: 80%以上 3: 50%以上	2: 30%以上 1: 10%以上	校長会で決めた 各教科の数値を書き込む	
観点別評価の 重みづけ	20	25	30	25
全項目の達成がめざされる特徴に重きを置く	2次方程式	・平方根を利用して、 デザインを設計するこ とができる。	・相似を利用して、 高さや距離 を求め、求め方 を論理的に説明 できる。	
成績づけのための 評価方法	图形の計量	・学んだ知識・ 技能を活用する ような問題づく りができる。	・学んだ知識・ 技能を実生活で 活用し、問題を 解決する。	
成績づけのための 評価の時期	実行可能な範囲で、 必要最小限のものを計画する。	大単元につ いて	期末テスト	期末テスト

①観点毎の重みづけを考えて、%を書き込む。  
(最後でもOK)

当初、①で考えていた%を修正してもOK。

全項目の達成がめざされる特徴に重きを置く	技能を活用する ような問題づく りができる。 ・相似を利用して、 高さや距離 を求め、求め方 を論理的に説明 できる。	できる。 習得が必要な必須目標について、 箇条書きして、チェックリストを作 る。(具体的な問題例等を示すのも よい。)	できる。 習得が必要な必須目標について、 箇条書きして、チェックリストを作 る。(具体的な問題例等を示すのも よい。)	できる。 習得が必要な必須目標について、 箇条書きして、チェックリストを作 る。(具体的な問題例等を示すのも よい。)
图形の計量	2乗に比例す る関数	資料の活用	图形の計量	图形の計量
成績づけのための評価方法	単記テスト 実技テスト パワーパズル課題 (レポート) 授業中の観察等 作問帳	評価方法の名前については、教科毎に わかりやすいものを工夫してもよい。	単記テスト 実技テスト パワーパズル課題 (レポート) 授業中の観察等 作問帳	単記テスト 実技テスト パワーパズル課題 (レポート) 授業中の観察等 作問帳
成績づけのための評価の時期	29	29	29	29
	複数作成して、 一番良い作品 2つ	大単元につ いて	期末テスト	期末テスト
	実行可能な範囲で、 必要最小限のものを計画する。			

⑥成績づけのための評価の時期を書き込む。

### (5)評価計画を評価する視点

- カリキュラム適合性 ←妥当性
- 比較可能性 ←信頼性
- 公正性:  
平等性、結果的妥当性、条件の明瞭さ、  
公表と承認の原則
- 実行可能性

何のため?  
改訂・改善する!

(西岡加名恵「教育評価の方法原理」  
田中耕治編『よくわかる教育評価』ミネルヴァ書房、2005年)